

平成27年4月8日(水)

老球の細道137号

ブレイクスルー(突破)!

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

日本のプロバスケットボールチームを中心にしたトップリーグ統一もようやく具体化してきたようだ。この渦中に会津出身初のプロバスケットボールプレーヤーがいる。「レバング北海道」の上杉翔君だ。彼は拓殖大学時代、大学日本一を決める全日本学生バスケットボール選手権大会(通称インカレ)のプログラム表紙を飾ったことがある。

プログラム表紙を飾れるのは4人しかいない。今が旬の大学バスケット界「日本の四人」である。その中の1人に坂下高校出身の上杉翔君が掲載されたのである。高校時代全国に名をはせた何人ものスーパースター達をしりぞけ、辺境の会津の無名校から史上初の快挙を成し遂げた。もちろん表紙だけではなく、インカレ「敢闘賞」の表彰も受賞している。

今まで下手くそでも、負けてばかりいても、二流三流でも、高い志、目標を持って努力を重ねれば、ある日突然とんでもない自分の可能性が開く。アメリカンドリームである。後に続け会津のバスケットボールアスリート達よ、大器は晩成するものである。上杉君はミニバスケットボールの経験はゼロ。中学時代からバスケットボールを始める。若松二中時代も市の中体連などで勝利の喜び皆無。もちろん地区選抜なんかも夢の夢幻。

そんな上杉君と私が初めて出会ったのは彼が中学3年の時だった。初恋の人と出会った時のような衝撃を受けた。こんなに柔らかいプレーをする中学生が会津にいたのかと。誰の目にも触れないで、誰にも気づかれずにダイヤモンドの原石は私の前に現れた。

その後、幸運にも当時私が勤務していた坂下高校に入学をしてくれた。明るい未来が約束されたかのように思われた。が、バスケットボールの神様はそんなに甘くはなかった。彼が入部しても坂下高校は地区大会1回戦負けが続いた。しかし、彼のインサイドプレーの進化と共に坂下高はブレイクしていった。県大会出場が目標だったチームが全国大会を目標にするようになり、上杉君は2年連続国体代表選手に選出された。会津の上杉から福島の上杉へとブレイクスルーしたのである。

その後彼は拓殖大学池内監督の目に止まり、同大学に進学した。1年生からスタメンの座を獲得する。2部だったチームを1部に引き上げ、最終学年、拓殖大学は優勝候補の一角に名を連ねる。そのキーマンが彼であった。福島の上杉から日本の上杉へ。

バスケットボールの練習は、肉体的にも精神的にも非常にきつい。苦しいと弱音を吐くこともある。しかし、そこから自分自身をブレイクスルーさせる本物の練習となる。成功と失敗のチャレンジを続けることによって乗り越えていく。そして、これまで経験したことのない領域まで踏み込んでいく。あくなき挑戦の果てに、いつの日か『壁』を突破することができるようになる。時間はかかる。忍耐と信念が後押ししてくれる。

誰もが無限の可能性を持っていることをバスケットボールは教えてくれる。上杉君は、それを身をもって実証した。高校時代の彼は決して弱音を吐かず、挨拶、身なりは申し分なし。ルックスは私と同じ(ナンチャッテ)イケメン派。普段は口数少なく物静かだが、いったんコートに入ると闘争心の権化と化す。プロになってもそれは変わらない。

会津のバスケットボールアスリートに告ぐ。高い志と下克上の飽くなき野心を携えて、「努力」と「情熱」いう魔法の力で上杉君のようにブレイクスルーしようではないか。